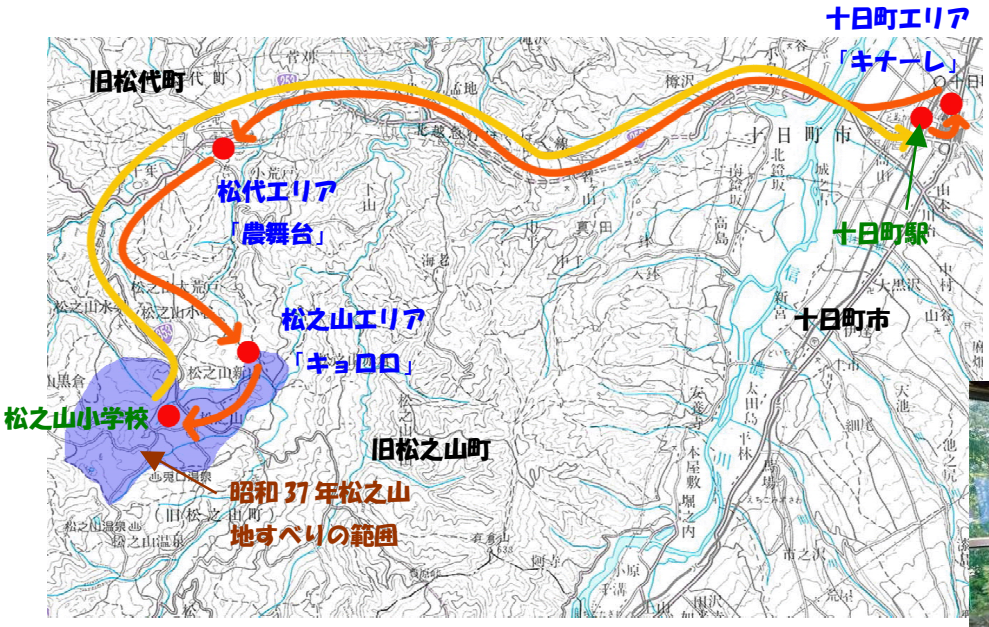
平成１８年度 魚沼自然塾 第２回レポート

平成１８年９月発行
国土交通省湯沢砂防事務所

秋の気配も感じられる９月９日土曜日、「“大地のアート”で自然と人のつながりを体感」をテーマに、第２回魚沼自然塾を開催しました。

十日町駅を出発し、「大地の芸術祭」十日町エリア・松代エリア・松之山エリアのアート作品を見学した後、かつて地すべり災害を体験した松之山で、地域の取り組みなどのお話を聞きました。



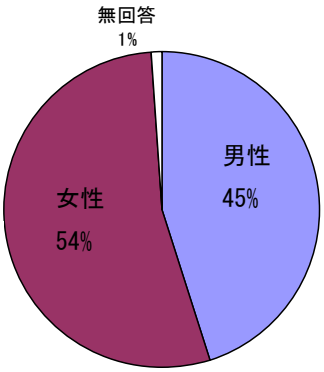
十日町駅からバス５台で出発

車窓からもアート見学

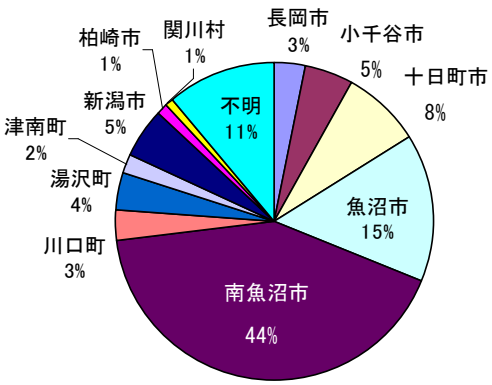
＜プログラム＞

９：２０	十日町駅よりバス出発
９：２５	十日町エリア「キナーレ」 アート見学
１０：３０	松代エリア「農舞台」 アート見学
１１：３０	松之山エリア 「森の学校　キョロロ」アート見学
１２：１５頃	松之山小学校にて昼食、映像上映、 お話「大地すべりからの復興と アートによるまちづくり」
１４：２５頃	バス出発（十日町駅まで）

参加者の性別割合



参加者の地域別割合



過去に魚沼自然塾で訪れた大地の芸術祭から

平成 12 年度 第 2 回魚沼自然塾
中里地区のアート見学

平成 15 年度 第 2 回魚沼自然塾
松之山美人林でのトーク

第３回大地の芸術祭アートトリエンナーレ

十日町エリア「キナーレ」～松代エリア「農舞台」～松之山エリア「森の学校キョロロ」

山と川、棚田と美しい集落の点在する 760k㎡という広大な地域に過去 2 回の芸術祭で制作された 130 点の作品に加えて、40 の国と地域 200 組のアーティストの作品が今年、震災と豪雪を乗り越え制作、設置されました。

十日町エリア「キナーレ」

十日町地域広域事務組合の金﨑さんに芸術祭の概要と作品の説明をしていただきました。

館内にはアート作品がずらり。
この作品は一升瓶でできています。

松代エリア「農舞台」

担当の柳取さんに作品の説明をしていただきました。

屋外にはたたいて音を楽しんだりするアートもありました。

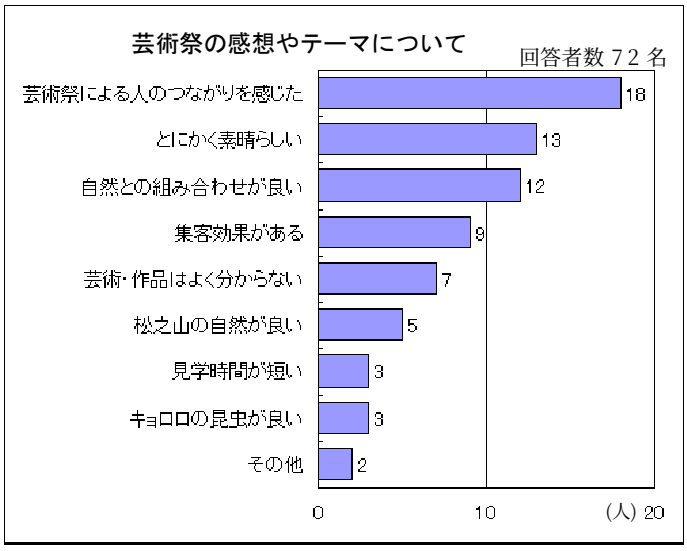
松之山エリア「森の学校キョロロ」

学芸員の永野さんに作品とキョロロの活動について説明していただきました。

松之山でつかまえた昆虫を人間サイズのパネルにした作品

＜＜参加者の感想～「大地の芸術祭」について～＞＞

- 新潟でも有数の豪雪地帯にこのような芸術祭が開かれたことは有意義なことだと思う。(男性/新潟市)
- 大自然と芸術がマッチした壮大さに感心した。もっと時間をかけ作品の気持ちを知りたかった。(男性/南魚沼市)
- 大地の芸術、文字通り大きな芸術、そして大地ならでは住人も参加できる芸術、素晴らしかった。(女性/魚沼市)
- 改めて大地と人のかかわりについて考えさせていただきました。(男性/魚沼市)



地元トーク

～松之山地すべりについてのお話など～

室内会場となった松之山小学校

旧松之山町は面積の５３％が地すべり防止区域の指定を受けています。昭和 37 年には、850ha にもおよぶ広大な地すべりが発生し、町の中心部が壊滅的な被害を受けました。

今では地すべりからの復興をとげ、観光・自然体験学習などによる交流で、地域の活性化を図っています。

今回の魚沼自然塾では、大地すべりを体験されたお二人の女性、地すべり巡視員の方、芸術祭に関わっている町の内外の方など、計７名の方にお話を伺いました。

＊昭和３７年の地すべりについて

（大地すべり体験者）

平らだった所が 30m下がったんです。その下がるのも、じわりじわり一ヶ月かかって下がったんですよ。それから、お風呂だけが本屋から離れて、1mも 2mも 3mも向こうへ行ってしまってね。朝起きると、わたわたっと床が落ちてる。でも、どうしても米屋をやっていかなきゃならない、ということでがんばったんですよ。

（大地すべり体験者）

ウチでは病人もいたし、子供は小さいし、水では本当に苦労しました。当時は何にもないからね。本当に不自由。みのを着て出るんだよね。夜になると凍っちゃって、それを火をたいて溶かして…。でも、本当、いい経験したと思っています。

＊松之山での芸術祭やまちづくりの取り組みについて

（地すべり巡視員・「夢の家」管理人のお一人）

地すべりの兆候が現れていないか、１ヶ月に６回、１回は約４時間程度地すべりの巡視をしています。夢の家という作品の管理をしていますが、毎日多くの皆さんを迎えています。明日は芸術祭最終日、どうしても１万人を突破したいです。

（越後松之山「森の学校」キョロロ　学芸員）

ここは絶滅危惧種の生物が裏山にいるという環境で、都会とは違った自然とのふれあいが出来ます。自然とか、いらっしゃる人々、伝統、文化とかをつなぎ合わせた、地域ならではの教育とか、観光とか、産業の振興とか、いろいろなものにつながるような研究を、地域の人と一緒にできたらなあと思って研究中です。現在、放棄水田を田んぼやブナの森に戻す企画をしています。

人生の切り替えを考えていた時に、芸術祭のことを聞いて、それなら、現地のボランティアとして参加できないかと芸術祭の事務局にお願いし、5 月のはじめに都会から松之山へ引っ越しました。一度も鍵をかけたことのない暮らしなんていうのは、都会では考えられないことです。

（芸術祭ボランティア）

きっかけは、友達が先に「こへび隊」をやっていて、手が足りないから一緒にやってくれと言われて、すごく気軽に「はいはい」と来て参加しました。続けるかどうかというのを自分で考えた時にはこの場所がすごく好きになったので、やっぱりもっと続けたいなあという気持ちになりました。

（十日町市議会議員・モクベエクラブ代表）

防災面ではいろいろ市でもやっているわけですけれども、やっぱり、人のつながりだと思うんです。あそこには足の悪いおばあちゃんがいるよとか、あそこには寝たきりの人がいるよというのを常に把握をしておく。1 人や 2 人ではだめですから、家庭、集落、地区へとその輪を広げていく必要があると思います。それから、やっぱり災害は忘れたいというのが、頭の半分はありますよね。ところが、やっぱり忘れてはいけないんだと。1 人 1 人の意識だと思うんですね。

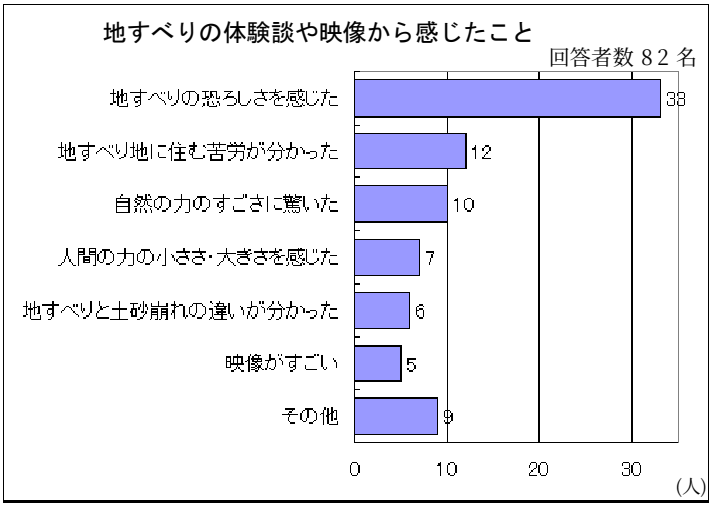
楽しい昼食風景

会場には松之山地すべりのパネルを展示

地元の方のお話

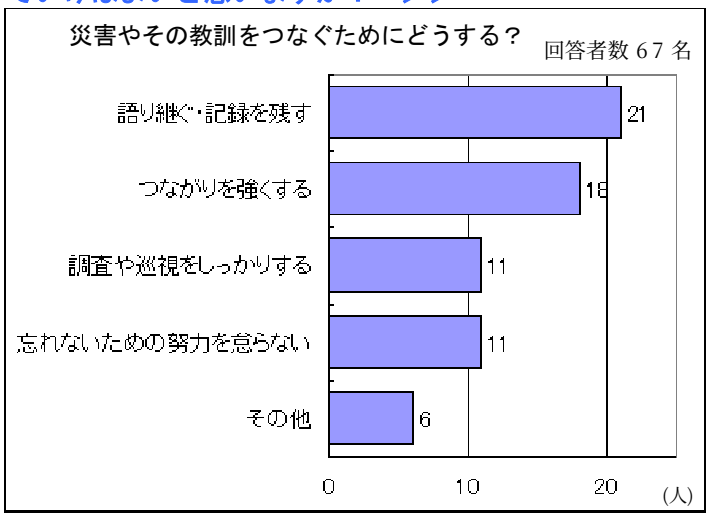
＜＜参加者の感想
～地すべりの体験談などから感じたことは？～＞＞

- 言葉では解っていても実際に経験をした方の話はまったく想像以上に大変だと思いました。地すべりというのは山だけだと思っていましたが生活している住宅地などもあるのは驚きでした。(女性/小千谷市)
- 地すべりが１ヶ月も毎日続いておきるということは知りませんでした。当時は大変だったなと思いました。(女性/南魚沼市)
- 地すべり体験者の話が印象的(男性/新潟市)
- 私の住んでいる地域も実は土石流が起こりうるところなので人ごととは思えませんでした。(女性/南魚沼市)
- 町が形もなくなる程の大地すべりにあいながらもよくもこれまで復興できたものだと思った。(女性/十日町市)



＜＜参加者の感想～災害やその教訓を、どのようにつないでいけばよいと思いますか？～＞＞

- 話を聞いていて、人と人とのつながりをまず作らなくてはならないと思いました。(女性/南魚沼市)
- 人と人とが仲良く力を合わせてがんばることが災害に負けず豊かな自然の中で暮らせるのだなって思いました。(女性/南魚沼市)
- 語り継ぐことで日頃の備え、心構えができると思います。今なお、地域で見まわりをしたり「ゆい」の会があったりと助け合いの大切さを学びました。(女性/十日町市)
- 科学を利用することはもちろんだが、人と自然との調和を大切にしたい。(男性/十日町市)



まとめ

地すべりが起こった場所で、今は大地の芸術祭をしています。災害を忘れずに、大地とつきあいながら、外に発信し、一緒にやっていこうというお話は今年の魚沼自然塾のテーマにふさわしいものでした。地域の人たちが互いに支え合って生きていくという“ゆい”という言葉も出ました。都会にはない自然のすばらしさや人々のつながり、地域が連携した芸術祭。盛りだくさんの内容でしたが、皆様がどんなことをお感じになったのか、ご家庭のなかで話し合っていただければと思います。

編集後記

今回もたくさんの皆様にご参加をいただきまして、ありがとうございました

また、開催にあたって多大なご協力をいただいた大勢の地元のみなさまにも感謝いたします。

次回は中越地震で被害を受けた芋川流域で１０月１４日の開催を予定しています。砂防工事の現場を見学し、山古志村にふるさとをとりもどそうとする方々の思いを聞きながら、人とふるさとについて、ともに考えたいと思いますので、どうぞご参加下さい。

お問い合わせ先：国土交通省 湯沢砂防事務所「公開講座事務局」

TEL：025－784－2073　FAX：025－784－2441

ホームページ：http://www.hrr.mlit.go.jp/yuzawa/